

# 教育委員会だより

## ★読書のすすめ

### ～論理的に考えることの大切さ～

「キレる」という言葉がすっかり定着したように、近頃、衝動的、短絡的に人を傷つける事件が報道されています。とても悲しいことです。

そして、なぜそんな事件を起こしたか「分らない」「説明できない」という加害者に対して、マスコミは「加害者の『心の闇』は根深い」という表現で片付けてしまっている気がします。

確かに近年、すぐ「キレる」人間が増えていると思います。その理由としては、朝食抜きや朝食・孤食などと言われる食生活の変化もあるでしょう。また、ファーストフードやコンビニ、インターネットやタブレットやパソコンなど、いつでも手に入るという「辛抱しなくてよい」社会になったということもあるでしょう。

そして特に感じるのは、「論理的に思考する人」より「感情的に思考する人」が増えているのも大きな理由ではないかということです。

「論理的に思考する人」とは、自分の感じたことを、頭の中で改めて言語や文章に直して考えることのできる人のことです。そういう人は、自分もいつも論理的に把握でき、冷静に対応できます。すなわち「キレにくい」のです。

「感情的に思考する人」は、一時の感情で衝動的に行動するために「キレやすく」、後で説明できる客観性と論理性を持っていないのではないのでしょうか。

ゲーム、携帯電話、DVD、インターネットなどの視覚情報に依存しすぎると、論理的に自分の感情を把握したり伝達する力が弱くなると聞いたことがあります。

養父市の子どものための「論理的に思考できる力」を育む

カギとなるのは、学校、家庭地域が連携した読書習慣の定着、だと考えます。

市内の小中学校では、週3回以上の読書タイムを設けて取り組んでいます。

また、「全国学力・学習状況調査」の分析結果をもとに学力を高めていく手立てとして、小学校では「今後も多くの本にふれさせる。また、学年に応じて図書を選定し、外国文学などさまざまな分野の図書にふれさせる」を掲げ、中学校では「読書をする機会、時間をより一層充実・確保していく必要がある。特に、名作名著と言われる本を選ばせて読ませる」を掲げています。

ご家庭でもすでに取り組んでおられると思いますが、時にはテレビを消して、家族で読書に親しむ機会をつくってみてはいかがでしょうか。

※全国学力・学習状況調査の養父市における分析結果は、養父市教育委員会ホームページ (<http://www.fureai-net.ty/yabusikyouty/>) で公表しています。

(学校教育課)

## まちの文化財④

### 丹戸のキャラボク



丹戸にある皇太神社の境内には、県下最大と言われるキャラボクが生育しています。

この木は、地面から50<sup>センチ</sup>ほどの位置で2つの幹に分かれ、東側の幹は水平方向に大きく枝を伸ばし、西側の幹はまっすぐ上に伸びます。樹勢は旺盛で、樹高は約7<sup>メートル</sup>あります。根廻りは243<sup>センチ</sup>、幹廻りは148<sup>センチ</sup>ありました。

アララギはイチイという常緑針葉樹のことで、ほぼ太平洋側に分布します。これに対して、積雪が多く、寒冷で強風が吹いて気象条件の厳しい日本海側の山地に分布するイチイの変種を、

キャラボクといえます。このため、キャラボクは氷ノ山のような高い山にしか自生しない珍しい樹木です。

国指定天然記念物としては、鳥取県の大山キャラボクが有名ですが、氷ノ山の山頂にも氷ノ山キャラボクの古木があります。高さは約3<sup>メートル</sup>、幹廻りは83<sup>センチ</sup>ですが太いところでは143<sup>センチ</sup>もあります。残念ながら所在地は鳥取県になります。

「ひょうごの巨樹巨木100選」という本の著者である橋本光政さんは、「アララギは、葉が中心から左右に2列状に出るのに対して、キャラボクは葉が輪生状に多く出ます。アララギは高木になりますが、キャラボクは日本海側の寒冷地に生育し、低く伸びて多くの枝を出します。丹戸のものは兵庫県で最大規模のキャラボクでしょう」と解説しています。

丹戸のキャラボクは、200年ほど前に氷ノ山から枝を持ち帰って神社に植えたものだと思います。丹戸は氷ノ山に比べるると安定した気候であることから、県下最大の古木に育ったのでしよう。キャラボクは、氷ノ山にちなんで旧関宮町の町木となっていた大切な樹木です。

(社会教育課)